

ばれいしょのアブラバチによるマミー		
6月	7月	8月
	観察適期	



・「マミー」は、寄生されて硬化したアブラムシの身体

ばれいしょでは、ギフアブラバチが発生し、主にジャガイモヒゲナガアブラムシ、一部はモモアカ、ワタアブラムシにも寄生する。

・観察適期は6月下旬～7月下旬

マミーは6月下旬から7月下旬に増えるので、この時期に観察する。マミーの大きさは、寄主となったアブラムシの種類によって異なるが、1～2mm程度で、色は淡い褐色、形はほぼ球形で、一見すると淡褐色のボールのように見える。ルーペなどを使って観察すると脚や長い触角、アブラムシの角状管などが確認できる。

・観察する葉は株の中位～下位の75複葉程度

マミーは、アブラムシの寄生が多い中位、下位の葉に多く見られる。また、マミーはそのほとんどが葉の裏面に見られる。

ばれいしょの中～下位葉を手でめくり、葉の裏面を観察する。観察にあたっては、茎から出ている「複葉」ごとに75複葉程度を対象にする。

・羽化アブラバチの確認

マミーの付着している葉をビニール袋などに入れて保存しておく、数日後に小さなハチが羽化してくる。これはアブラムシに寄生したギフアブラバチや、寄生したアブラバチに二重寄生したその他の寄生蜂である。